

あなたのいる場所すべてが、
群馬銀行になります。

Gダイレクト
インターネットバンキング

インターネットからも
お申し込みいただけます。



あなたの夢、応援します。
群馬銀行

被災地の春遠く

桐生発の支援続く

「風化させない」泥かき隊員の思い

暦の上では立春だった4日朝、雪景色に包まれた宮城県南三陸町の被災地に、桐生発の災害支援ボランティアたちが降り立った。通算67回目となる日帰りの往復バスでの泥かき作業。50回以上通い続ける人もいる。厳寒期の人手不足もあって、被災地の復興はいまだ道半ば。桐生発の「泥かき隊員」たちは年齢も性別もさまざまだが、「震災を風化させない」との思いは同じだ。



津波が突き抜けた町営住宅の部屋で、泥まみれのがれきを分別する災害支援ボランティアの人たち（宮城県南三陸町志津川で）

津波に市街地ごとのみ込まれ、爪あとが色濃く残る南三陸町志津川地区。海のすぐそばに立つ3階建ての町営住宅がこの日、桐生発の泥かき隊に託された現場の一つとなった。

屋根の上には大量のがれきが残る。部屋の中も、泥まみれのがれきが手つかずのまま。それらを手作業で外に出し、持ち主に返す貴重品などを拾い集めた上で分別回収する作業だ。

桐生発の泥かき隊とは、桐生災害支援ボランティアセンター（宮城由高センター長、川田力也リーダー）主催の週末日帰りバスツアー参加者。町営住宅の作業には、一般約20人に樹徳高校の志願生徒約30人の計50人が参加した。

ときおり雪が舞う中で約4時間、大人と高校生が一緒に作業をこなす。「これは捨てられない」「がれきの中から写真など思い出の品を見つけるときに、被災者のつらさを実感し言葉が失った。かわいらしい赤ちゃんを写した古い写真や小学生が手書きした詩や作文を見つけ、現在の安否を気遣う参加者。「この町営住宅に住んでいた子どもは全員無事」との情報に一堂ほっと胸をなで下ろす場面もあった。

成感はある。でも、被災地の現状を見れば100%にはならない。もっと何かができると思う」「同じ志をもった仲間がいて、新しく参加する仲間がいて、喜んでくれる人がいるから、また行きたくなる。その繰り返しです」。その一方で、心配なこともある。「まだ（泥かき）行ってるの？」と言われることが最近多い。震災を風化させないためにも、ぜひ多くの人が参加してほしい」と呼びかける。

「阪神大震災や新潟県中越地震のとき、国外にいた自分は何もできなかった。3年前に帰国し、今回の震災で津波の映像を見て、今度こそ被災地に行く」と決心した桐生発の泥かき隊を支援する引率者役で、60回近く被災地に通い続ける金子瑞穂さん（37）は、桐生市は、活動の原点にある思いをそう語る。

「行くたびに少しはお役に立てたかなという達成感がある。でも、被災地の現状を見れば100%にはならない。もっと何かができると思う」「同じ志をもった仲間がいて、新しく参加する仲間がいて、喜んでくれる人がいるから、また行きたくなる。その繰り返しです」。その一方で、心配なこともある。「まだ（泥かき）行ってるの？」と言われることが最近多い。震災を風化させないためにも、ぜひ多くの人が参加してほしい」と呼びかける。

「阪神大震災や新潟県中越地震のとき、国外にいた自分は何もできなかった。3年前に帰国し、今回の震災で津波の映像を見て、今度こそ被災地に行く」と決心した桐生発の泥かき隊を支援する引率者役で、60回近く被災地に通い続ける金子瑞穂さん（37）は、桐生市は、活動の原点にある思いをそう語る。

「行くたびに少しはお役に立てたかなという達成感がある。でも、被災地の現状を見れば100%にはならない。もっと何かができると思う」「同じ志をもった仲間がいて、新しく参加する仲間がいて、喜んでくれる人がいるから、また行きたくなる。その繰り返しです」。その一方で、心配なこともある。「まだ（泥かき）行ってるの？」と言われることが最近多い。震災を風化させないためにも、ぜひ多くの人が参加してほしい」と呼びかける。

昭和小学を南小へ編入統合

で検討していることなどを説明。また昭和小学の跡

していた。

泥かき参加の高校生

「経験を伝えたい」

「続けること大事」

(1面から続く)

今回参加した樹徳の高

校生たちが帰りのバスで語った感想には、現場の経験者ならではの実感のこもったコメントが相次いだ。

「震災から1年近く

たっても、こんなにひどい状態だとは思わなかった。震災を風化させないためにも、今回の経験を多くの人に伝えたい」

「向こうの人たちが思った以上に明るく前向きに復興を目指してい

て、恵まれた環境の自分

たちも頑張らなきゃいけないと思った」

「これだけ人数がいて

一日一部屋しか片付けられなかった。でも、小さなことを続けていくことが大事だとも感じた。また参加したい」

◇

桐生発の泥かき隊は

18、25日に岩手県陸前高田市へ、19、26日、3月4、10、17、24日に南三陸町へ、それぞれ日帰りのバスを出す。

午前0時45分に桐生駅南口に集合し、午後11時

前後に同所へ帰着予定。

参加費は2000円。希望者は桐生災害支援ボランティアセンターのホームページ(<http://www.sagaivolunteer.info/touhoku/index.html>)か、桐生市社会

が昨年3月15日に設立。

【メモ】桐生災害支援ボランティアセンターは東日本震災の被災地を支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

支援しようと、桐生市のボランティア関係者が



津波の直撃を受けた町営住宅。震災から1年近くたっても、屋根の上には大量のがれきが山積みのみまだ(宮城県南三陸町志津川で)

福祉協議会(電46・4165)で申し込む。

【メモ】桐生災害支援ボランティアセンターは東日本震災の被災地を支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

支援しようと、桐生市のボランティア関係者が

11日から梅まつり

期間中に写生大会や茶会

南公園

被災地で炊き出し支援や泥かき支援などを行う。泥かきは昨年4月3日から計67回、宮城県岩沼市

や石巻市、南三陸町などに日帰りのバスを出し、参加者を募って支援を続けている。

桐生市南公園梅まつりが11日から、桐生市広沢町五丁目の同公園で開かれる。今年も期間中は写生大会、梅まつり茶会などのイベントがある。

写生大会は今年で28回目。対象は市内小学生、幼稚園・保育園児。画題は南公園の風景。四つ切り画用紙を使用(各自用意し、画材はクレヨン、水彩など自由)。

応募は2月11日から3月11日(午後5時まで)の期間中に同公園管理事

務所に提出する。応募は1人1点。入賞者には賞状と副賞、応募者全員

ワードでちらしやDM作成学が講座

来月、職訓センターで

桐生市職業訓練センター

1は、ワードレイアウト

テクニク講座を3月5

日から9日までの全5回

の日程で、市内相生町五

丁目の同センターで開講

する。毎回午前9時から

同講座では、ワードの